



**SAVE THE
HEART**

「ハート」チェックシート

愛犬の心臓病の早期発見のために

ワンちゃんと心臓病

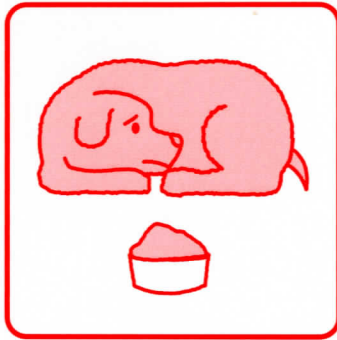
現在、日本のワンちゃんの約55%は7歳以上の中高齢犬*です。

人と同じ様に、ワンちゃんも高齢になるにつれていろいろな病気にかかりやすくなります。特に心臓病は8歳を境にリスクが高まるといわれています。心臓病の初期症状は加齢ともなう変化と似ているために、発見が遅れ病気が進行してしまうケースも少なくありません。日常生活の中で、ワンちゃんのちょっとした変化に気づき、病気を早期に発見して治療することが大切です。

※「第15回 犬猫飼育率 全国調査」(一般社団法人 ペットフード協会、2008年 10月調査)より推計

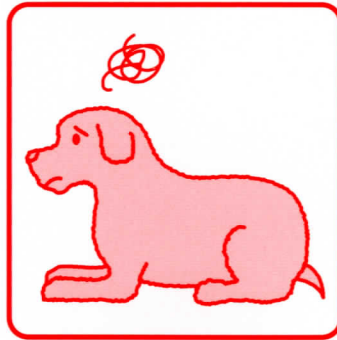
ワンちゃんに、このような症状は見受けられませんか？ まずは、チェックしてみましょう！

Check.1



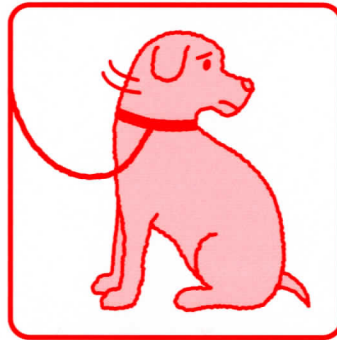
食欲がない

Check.2



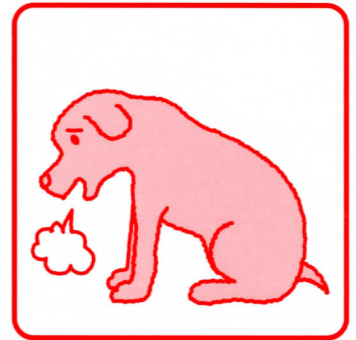
元気がない

Check.3



散歩に行きたがらない

Check.4



疲れやすい

該当する項目が1つでもあったら、**心臓病(僧帽弁閉鎖不全症)**を疑ってみましょう。

僧帽弁閉鎖不全症とは・・・

犬の心臓病にはさまざまな種類があり、「僧帽弁閉鎖不全症」はその中で最も多い病気です。この病気は、心臓にある僧帽弁という弁が閉じなくなって、結果として血液が逆流してしまう病気です。血液が逆流するようになると、血液の流れが滞り、それをカバーしようと心臓はいつもより一生懸命がんばります。心臓ががんばっている間は全身に大きな影響はありませんが、徐々に負担がかかり、限界に達した時に心不全となってしまいます。やがて、心臓だけでなく、肺や腎臓など、全身にも影響が出てきます。

■ 僧帽弁閉鎖不全症の多い犬種例

- マルチーズ
- ミニチュアダックスフント
- チワワ
- ヨークシャーテリア
- パピヨン
- ポメラニアン
- シーズー
- トイプードル
- キャバリア・キングチャールズ・スパニエル

※上記以外の犬種もこの病気にかかる可能性があります。

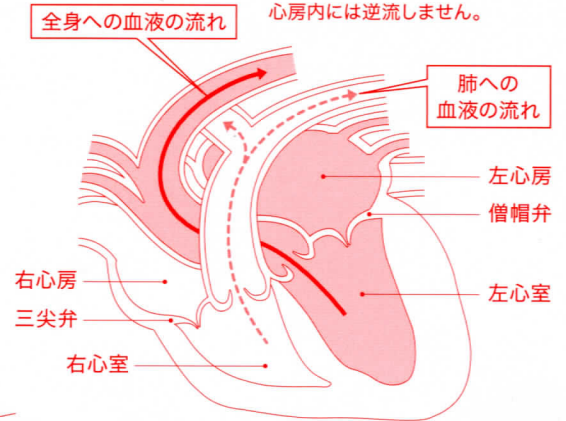
■ 治療方法

現在、「僧帽弁閉鎖不全症」の治療は、お薬により症状を軽くし、進行を抑えるのが中心です。幸い、よいお薬のおかげで、心臓病を患っていても長く元気に暮らすことができます。そのためにも、心臓病のチェックと早期発見が大切です。

この病気が疑われる場合は、当院スタッフまでご相談ください

正常な心臓

三尖弁と僧帽弁が閉鎖し、血液は心房内には逆流しません。



全身への血液の流れ

肺への血液の流れ

僧帽弁閉鎖不全症の心臓

僧帽弁が心房側へ反転し、僧帽弁の閉鎖が不十分となり血液の一部が左心房内へ逆流してしまいます。

